

はじめに

会派くらよしの藤井隆弘です。よろしく申し上げます。今回は、教育長に「学校の適正配置」について、市長には「住みたい行きたい、帰りたいまち くらよし」に関わって（１）倉吉市生活満足度調査（２）安心安全なまちづくり（３）モビリティ・ループバス（４）空き家対策 についてお伺いします。

1 学校の適正配置について

児童生徒の減少、教育環境維持で学校の適正配置が進んでいます。「倉吉市児童生徒数推計」では2028年小学校全体で2291人から1986人と減り、複式学級となる学校が2校、なりそうな学校も2校あります。中学校でみると2032年には全体で1154人から1042人に減り、学校全体で52人、88人の学校もあります。

藤井

（１）学校再編の推進状況に関わって3点お伺いします。

- ①成徳・灘手・明倫の3校に関わることで以外の地域の動きを教えてください。
- ②喫緊の課題は複式学級解消ですが、小学校・中学校の新たな適正配置も並行して検討が必要ですが、教育長の考えをお伺いします。
- ③倉吉市では複式学級解消のため「小規模特認校制度」を行っていますが、実績と効果はどうか。また、この制度は「校区外就学」で対応すれば良く、魅力ある学校として全国発信する「小規模特認校」でなければやめても良いのではないのでしょうか。

教育長

①小鴨・上小鴨については、12月16日（金）に第1回統合準備委員会を予定、開校は令和6年4月の予定です。校舎は現小鴨小学校、校章は新しいものということで進んでいます。高城・北谷・社地区については、11月終わりに統合の方向性を決定。速やかな統合ということで令和6年4月に北谷小と高城小の新しい小学校でスタート。校舎は現高城小、北谷小児童はスクールバスで通学という要請のお願いを受けています。

②今は小学校の統合が優先。当分の間、東中・西中とも1学年3クラス、河北中は1学年3から4クラスということになります。鴨川中に関しては、地域の要望もありしばらくはこのまま。

③小規模特認校制度の実績は、令和3年度2人、令和4年度1人、令和5年度は現在のところ1人です。小規模特認校制度と校区外就学は目的が異なります。

藤井

小鴨・上小鴨については校名は小鴨で校舎は現小鴨小学校。北谷と高城は2校の統合で社については別に考えるということですね。小・中学校の再度の適正配置ということです。2028年の小学校1年生は北谷4人、高城3人であわせても7人です。関金は8人です。中学校についてですが、2034年には、河北中350人（現在356人）、鴨川34人（現在79人）、社小から卒業生は、西中5割、東中3割、久米中2割という進学状況だと聞いていますので粗い計算ですが東中280人（現在248人）、西中204人（現在347人）、久米中68人（現在124人）となります。予測される数字ということです。

藤井

次に、明倫小学校卒業生の就学に関わって3点お伺いします。

①「明倫小学校の進学先を令和5年度から倉吉市立東中学校とし、移行措置期間を3年間設けること」となっていますがどういうことですか。就学先希望をとられています指定校以外の希望数や理由どうなっていますか。

②3年間の移行措置が経過すると明倫小学校卒業生の就学は全員東中となるのですか。「校区外就学」の申し立てがあった場合はどうするのですか。

③「学校統合準備委員会だより第5号」には、

Q. 明倫小学校はいつ統合するの？という問いに対して

A. 「・・・明倫小学校と至誠小学校の児童数がさらに減少してきたら、統合準備の協議に入ります。・・・」とあります。

「さらに減少してきたら」とは複式学級になりそうになったらという理解でよろしいでしょうか。経過措置が終了しても統合が進まない場合は、進学先が東中に変わるだけですか。

教育長

- ①兄弟姉妹がすでに西中に在学していることを配慮してのことです。11月30日現在ですが、明倫小の卒業生は23人、そのうち進学先希望は西中9名、東中11名、その他3名となっています。理由は聞いていません。保護者・本人の判断です。
- ②原則全員東中です。校区外就学の申し立てがあれば、それを受けて判断することになります。
- ③統合準備会の前の検討会では「複式学級が将来的に見込まれるようになることが一つの目安」となっています。状況によっては、保護者の方から統合を望む声があれば保護者・地域の要望によります。明倫小の2028年の児童数は114人です。

藤井

3校統合が前提ということが崩れているのではないですか。

議会答弁や流れを整理してみると次のようになります。

○平成3年3月に第9回適正配置協議会で将来的な3校統合の合意がありました。

○平成3年5月に（準備委員会の前段として）3校の検討会が各校3人ずつ9人でもたれました。学校名は、明倫、灘手は新しい名前をつけるべき、成徳は縛りをかけて欲しくないとのことでした。2回目、3回目は成徳・灘手のみで検討会がもたれ明倫地区には必要に応じて声をかけるとなりました。

○平成3年8月に成徳小・灘手小学校統合準備委員会ができました。

○令和3年12月議会で明倫地区の関わりについての一般質問では、教育長答弁「校名、校章、校歌等必要な内容には参加していただく。現状明倫地区は入っていない、どのタイミングで入っていただくか、意向もくみながら決めていきたい」でした。その後報告を代表3名にしたとのことですが、現状は2校の統合です。

3校統合なら明倫小でも12名の準備委員会メンバーが必要だったと考えますが、教育委員会として明倫地区への働きかけはされたのですか？

教育長

3校統合ならば3地域ということですが、「必要な内容の時には明倫も参加するけど」ということでした。タイミングを見ながら明倫の方には報告しており、例えば校名を決める段階で明倫に行

き「準備委員会においでになられますか？」ということは打診はしていますが、「この段階は明倫はいいだろう」ということでした。結果として明倫地区は入られなかった。将来的に3校の統合を目指すために、中学校の進学先を東中に変更された。明倫地区の合意のもとに、そのようにされたということで、当時のPTA会長の言葉を借りると「東中学校に先に進学することで、仲良く仲間作り。保護者、子どもも同様に少しでも学校の統合に近づくためには東中に進学することの方が良い」ということでした。

2 住みたい、行きたい、帰りたいまち くらよし

加速する少子高齢化、激甚化する自然災害、コロナ禍での閉塞感、物価高騰など私達を取り巻く生活は厳しいものがあります。「暮らしよし倉吉」とするために提言も含めながら質問をしていきます。

藤井

(1) 倉吉市生活満足度調査についてです。3点お伺いします。

市役所から「倉吉市生活満足度調査への協力へのお願い」の案内が来ました。9月補正予算にあった「しあわせ実感・生活満足度アンケート」です。

- ①この調査の目的と実施状況（流れ）についてお伺いします。また、内閣府でも同じような調査を令和元年から継続して行っており、多くの自治体が参加しています。国の調査との関連があるのかですか。
- ②倉吉市では「市民意識調査」を行っていますが、意識調査との関係はありますか。また、本年度「小田急電鉄」と共同で倉吉のまちづくりに関する取組が行われており、11月には報告があったと聞いています。このことについても関係があれば教えてください。
- ③この調査は、「今後の市政の運営に生かしてく」とありますが、どのように生かしていくのですか。また、倉吉市総合計画や総合戦略との関係はどうなるのですか。

市長

①6900人を対象に調査を行っています。12月9日に回答締め切りなので、その後分析を行うこととなります。国のものは全国的な傾向はわかるので、倉吉市独自のものも入れて全国のものも参考

にして分析していくこととなります。

②市民意識調査は平成17年から行っています。生活満足度も参考にしながら検討したい。将来的には、一本化しても良いのかと思っています。小田急と共同しての取組を行っており、11月に報告がありました。まちの課題を解決するために市民の自律的な行動を増やすことが必要という報告でした。

③市の強みを伸ばし、弱みを強みに変えていくことが大切。人材育成スクールの報告等も参考にしながら、総合戦略に生かしていく。

藤井

(2) 安心安全なまちづくりについてです。市道とつながっている県道の道路照明等付属施設について2点お伺いします。

①街路上井羽合線の進捗状況と道路に付属する道路照明、横断歩道、信号機等の設置について教えてください。また、付属施設等の設置について地元の意見を聞いたりすることはあるのですか。

②神綱前踏切から小田橋にかけての約400mの間の道路照明および横断歩道等の設置についてです。上北条地区の地区協議会長や総合産業高校PTA会長等をされていた方から「議員さんの近くの県道を総産の生徒が通っているけど暗くて危ない、なんとかありませんか」と相談を受けました。この県道上井北条線は市道とも接続して交通量も多く、街路上井羽合線が開通すると一段と交通量の増加が見込まれます。中間地点には国道179号線バイパスが上を通っており、接続する市道との交差点がコンクリート壁が死角となるためか物損事故が発生しやすく人身事故も起きています。道路の両側には4m近くの歩道がありますが縁石が続き横断出来ないため、歩行者は縁石をまたぎ横断しています。また、この道路は、総合産業高校や河北中生徒の通学路となっていますが、道路照明もなく変則的な部分もあり、天神町側の防犯街路灯も防音壁で隠れて暗く歩行者や自転車は通行しづらい道路です。

道路照明や横断歩道など付属施設の設置が必要だと考えますが如何でしょうか。

市長

①街路上井羽合線進捗状況についてです。260mについては供用

開始している。バイパスから短大側500mの間の工事に入っています。今月中に金比羅院の移転が終わります。令和5年4月からは全面通行止めとなります。今後、近隣の移転補償もある。令和6年事業完了予定です。

道路照明については、短大入り口のところは予定されています。横断歩道は短大側の方に2カ所つく予定。信号機は、警察の公安委員会に設置要望を出される。この道路は、大学生や一般の人の通行となるので地元の意見を聞くということはないとのこと。

②神綱踏切前から小田橋にかけての道路についてです。これまで道路管理者（県）が、ミラー等安全対策をとってきました。現行の基準では道路照明の設置は難しいです。

藤井

道路照明施設設置基準によると、次のようになります。連続照明は、(イ)歩道等の利用者が道路を横断する恐れがあり、自動車交通量および歩道等の利用者数の多い区間には道路照明をつける。局部照明は、i (ハ)夜間の交通上特に危険な場所、ii (イ)交差点又は横断歩道(ロ)歩道等)につけるとあります。この道路は、交通量も多く、歩行や自転車通行には不便で危険な歩道で、事故も発生しています。この道路には横断歩道等の施設も必要だと考えます。まずは、現状を調査していただき、必要に応じて地元や学校関係者とも協議の機会があればと考えますが如何ですか。

市長

防犯街路灯の設置は可能です。現状の確認も含めて安全対策をとっていただくよう道路管理者（県）にお願い・要望していきたい。

藤井

防犯街路灯の設置については、市の補助金も活用しながらこの2・3年LEDの防犯街路灯の設置、新設を行っています。町内市道の防犯街路灯のことでなく、県道の道路照明の問題です。対応をお願いしたいので再度答弁を求めます。

市長

県と一緒に、現場を調査するなど何が出来るか検討してみたい。

藤井

コミュニティ放送（倉吉市防災行政無線アンケート）についてです。倉吉市では、コミュニティ放送を利用している自治公民館の意見を反映させるためアンケートを11月に実施されました。質問内容は、①コミュニティ放送の利用状況②操作方法③改善点でした。どのような結果だったのか教えてください。

市長

市内121自治公民館のうち83自治公がコミュニティ放送を利用できるとしており、そのうちの65自治公から回答がありました。利用していないところは、自前の有線放送を使っている等でした。操作方は、7割が簡単であるとの回答です。1割（11団体）は、マニュアルを見ないと使いづらい等といった回答でした。改善点としては、

○災害時にリアルタイムに放送できるようにしてほしい。

○タイムラグが発生するので改善できないか。

○電話番号の登録をもっと増やしてほしい。

○音声の問題で、ノイズがある。等でした。

追加機能としては、

○チャイムの違いがわかるようにしたら良い。

○屋外スピーカーでの放送の追加が出来たら良い。等でした。出来ることはやっていきたい。

藤井

10億円以上をかけて令和7年から防災行政無線の交信整備を行う予定です。自治公の役員としてコミュニティ放送を利用しているが、使い方はマニュアルを見ながらで簡単とはいえない気がしています。個人的にも、改善点、要望としては、

コミュニティ放送を中心に考えたとき、

①ノイズが入らない音声のクリアな放送がよい。

②タイムラグの解消に関してですが、

・電話による録音でなく即時放送が出来ればよい。

・電話を通じた録音で、2分という時間制限が何とかならないか。

③屋外放送設備について

・（災害時、防災訓練等）各自治公に向けて放送可能な設備にして欲しい。各自治公民館単位でマイクを使って放送できればよいといったことを考えますので、よろしくお願いします。

藤井

（３）モビリティ・ループバスについてです。

１０月から１１月にかけて、白壁土蔵群を含む中心市街地でモビリティ（電気自動車）とループバスの実証事件をしました。実証実験ではアンケートをもとにニーズを把握したり、意見を聞いたりして運行計画を策定することとなっています。２点お伺いします。

①運行実績はどうだったのでしょうか。また、乗車アンケートではどのような感想・意見があったのでしょうか。

②今後運行計画策定に向けて取り組みを進めていくこととなります。現時点での手応えを教えてください。

市長

①１０月はループバス２台、グリーンスローモビリティ２台を使用しました。１１月はモビリティ１台で観光ガイド付きとした。観光客からは、ゆっくり心地よい、素敵なまちだと思った。スマホで位置、人数が確認できる等と高評価でした。高齢者の方からもこれまでより頻繁に買い物が出来よかった。等の意見が聞かれました。

②手応えは概ね高評価。結果を分析しながら、県美の開館を見据えた観光誘客や地元住民の移動手段として計画をしていきたい。

藤井

○モビリティは観光面で有効。台数や運転手の確保が必要。

高齢者の利用の可能性もありそう。

○ループバスの観光面や公共交通での活用については、観光面でも使い方次第で有効。道路状況や位置情報などＩＣＴ活用、買い物の配達、バス利用にポイントをつけるなどの付加価値をつけて、買い物や病院への通院等市民の交通手段として有効だと考えます。

○今回は、中心市街地での実証実験であったが、有効・活用できることがわかれば、倉吉駅周辺など他地域での運行も検討して良いのではないかと。

藤井

(4) 空き家対策について

最近、新聞報道等で倉吉市内の企業誘致のビッグニュースが2件ありました。いずれも100人以上の雇用を伴います。しかし、現状では雇用の拡大が倉吉の人口増加につながらず湯梨浜町や北栄町に住んで仕事は倉吉というケースが結構あります。一方、高齢化社会で、空き家等の問題が大きくなっています。倉吉市空き家等累計登録件数は、平成30年で879戸でしたが令和4年には823戸と減っています。地区別集計を見ると上井地区は65戸となっています。しかし、所有者が実際には施設や病院にいて住んでいない等空き家状態の家、空き家予備軍（独居や高齢者世帯等）をあわせると何倍もあるというのが、住んでいる地域や市内を回っての実感です。お伺いします。

①「倉吉市空き家等累計登録件数」の空き家等の実態把握や認定はどのように行っているのですか。

市長

①実態把握は、自治公の協力を得ながら平成24年から平成28年にかけて実態調査を行いました。また、平成30年には中部地震の影響も踏まえて調査を行いました。認定は、市職員のパトロールや、電気メーターが回っていない、敷地内の出入りがないなど管理が不完全な状態についても調べました。

藤井

○まずは、空き家等の実態をきちんと把握することが必要です。

○空き家問題の要因は、例えば

- ・所有者が認知症を発生し、対策が困難
- ・家屋を解体すると固定資産税の軽減措置解除で税負担が増える？
- ・所有者の高齢化で資金や気力等がなくなる
- ・遺品整理等が出来ていない
- ・相続人同士の合意形成ができない 等です。

続いて、空き家の利活用についてです。令和5年度当初予算編成方針にも「若い世代の地域からの流出防止」が挙がっています。倉吉市でも空き家対策として、空き家バンク、アキソルとの協定締結、ホームページへの民間業者の紹介等行っています。また、移住定住

のための助成制度もあります。しかし、インパクトがもう少し、助成制度も県外からの移住に限られるなど、倉吉からの人口の流出を防いだり、県内・近隣からの移住を促進することにはつながっていません。

②若い世代を含め地域からの流出防止のための施策はありますか。

市長

空き屋の有効活用も大切だと認識しています。空き家バンクの登録件数215件のうち成約が150件、現在41件となっています。オムロンなど雇用が増える企業などには紹介させていただき、空き家等活用できるようにしていきたい。納税通知に空き家バンクの紹介を掲載したり、ホームページに支援制度を掲載したりして地域内（倉吉市内）に住んでいただけるようにしたい。制度の見直しも指示しているので、充実させたいと考えています。

藤井

他自治体では、具体的な空き家対策をとっているところもあります。

○空き家所有者に対する情報提供・啓発活動

・愛媛県八幡浜市、福岡県田川郡川崎町、群馬県太田市等

○空き家の改修に対する支援(補助金)

・大阪市空家利活用改修補助・真庭市空家の改修に対する補助 等

○空き家取得に対する支援(補助金)

・三重県伊賀市空き家取得費補助・栃木市空家購入補助等あります。

倉吉市でも空き家等の対策に特化した相談システムや支援制度を考えるとときだと考えますが如何ですか。

市長

他の自治体の支援制度等も研究しながら人口流出防止に努めていきたい。